

検討のきっかけ(平成 28 年度市民会議)

■平成 28 年度稲城市海外姉妹都市検討市民会議の提言(29. 1. 18)

「他市の状況を見ると、交流協会等の団体を設置している例が多く、その団体が交流に関する情報提供や、交流機会の付与といった役割を果たすことで、市民交流が積極的に展開されていると聞いています。本市においても、海外姉妹都市交流及び国内の姉妹都市・友好都市交流を担う、市民が主体となった団体の立ち上げが必要であると考えます。

【(仮) 交流協会のイメージ】 ※海外姉妹都市検討市民会議でのご意見等

(1) 事業内容について

- ①海外姉妹都市との交流事業及び国内姉妹都市・友好都市との交流事業を行う。
- ②姉妹都市以外であっても、色々な都市との交流が進んで来れば、(仮) 交流協会で交流事業の対象とできるものとする。

(2) 組織体制及び運営方法について

- ①市の組織ではなく、外部的な組織を想定。
- ②市内の様々な団体の協力を得ながら、行政との協働で組織を立ち上げ、将来的には稲城市体育協会や稲城市災害防止協会のような自立した組織を目指す。

■平成 29 年度 姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会の検討経過について

〔委員人数〕: 14 人 (※ (仮) 交流協会の活動に熱意をもって取り組む意欲のある→将来の交流協会の中核を担っていただきたいと考えています。)

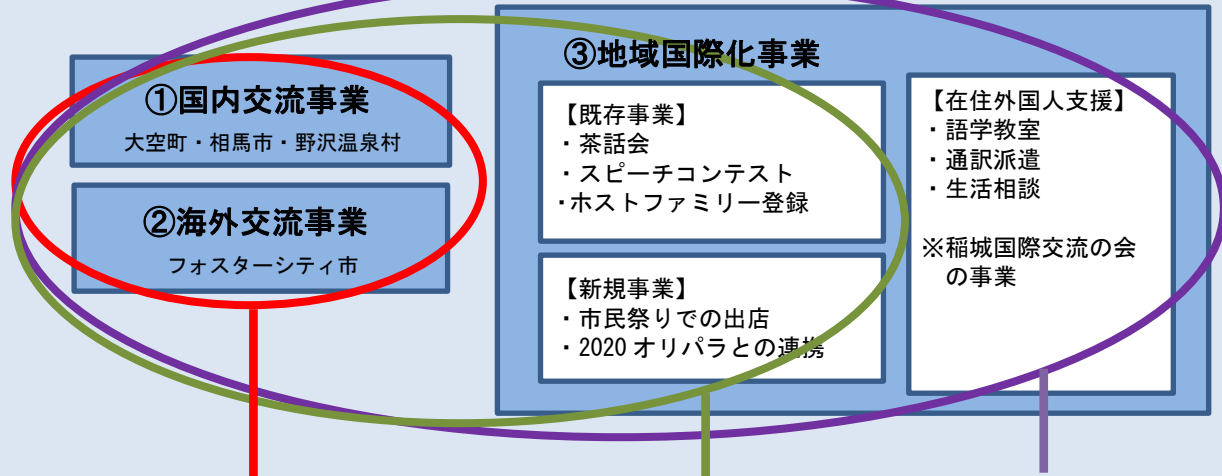
〔検討内容等〕: (仮) 交流協会の「**事業内容**」、「**組織体制**」、「**運営方法**」に関して調査及び検討し、市長に提言する。

・平成 29 年度は 3 回の会議を実施し、様々な意見・アイデアをいただいていたが、交流協会の目的・役割等に関し、複数の意見が出ており、検討が継続されている。

平成 29 年度検討結果は右表のとおり

■平成 29 年度検討結果 交流協会の目的・役割等に関する意見 (3 分類)

※交流協会の事業内容について、「①国内交流事業」、「②海外交流事業」の 2 本立てとするか、「③地域国際化事業」を加えた 3 本立てとするかで意見が分かれている。



分類	事業 2 本立て	事業 3 本立て(支援なし)	事業 3 本立て(支援あり)
賛成意見	・そもそもの目的が姉妹都市・友好都市との交流事業を対象とした協会の設立であり、地域国際化事業は実施しない理解となる。	・「国内交流事業」「海外交流事業」だけでは通年で会員に楽しんでもらう事業展開ができない。地域国際化事業を含めることで団体としての通年の活動が可能となる。 ・海外姉妹都市が未締結の現状では、対象事業を広げておいた方が協会が成り立つと思う。	・在住外国人に日本語を教える語学や国際理解事業について交流協会で担当してほしい。 ・稲城国際交流の会は高齢化して、継続してやっていけるか疑問がある。できれば解散し、姉妹都市・友好都市交流協会と一緒に事業(在住外国人支援)をやってほしい。
反対意見	・国内・海外交流事業だけだと事業数が限られ、会員の方に通年で楽しんでもらう事業展開が図れない。	・まずは「国内」「海外」交流事業を始め、軌道にのったら「地域国際化事業」が入ってくるのがよいと思う。	・稲城国際交流の会の方がやっている事業はこれからも継続していただければ良い。 ・「支援」は今回の件とは別にすべき。

まずは、交流協会の目的・役割を明確化し、準備会としての共通認識とすることが必要